

酪農経営体生産性向上緊急対策事業 のポイント

【6,000百万円】

酪農経営の現状

- 酪農家戸数が減少する中、規模拡大や1頭当たり乳量の増加により生産性を向上。

| 酪農家 | 18年 | 28年 |
|-------------------|-------|-------|
| 酪農家戸数 (千戸) | 26.6 | 17.0 |
| 経産牛飼養頭数 (頭/戸) | 39 | 51 |
| 1頭当たり乳量 (kg/年) | 7,747 | 8,511 |

酪農経営の課題

- 規模拡大に伴い、自給飼料や労働力が不足し、初妊牛の自家育成が困難となり、北海道からの購入に頼る経営が増加。
- 乳用牛の観察に十分な時間を割けず、乳房炎や跛行等を早期に発見できず、乳用牛の供用期間が短縮傾向。
- 自然災害による搾乳の停止は、酪農家の収入に大きなダメージ。

- 本事業の目的である、酪農家の労働条件の改善と所得向上のためには、労働時間短縮だけではなく、経営上の課題の解決に向けた、酪農家の取組が必要。
- このため、本事業では、省力化に資する機械装置の導入等により生じるゆとりの一部を利用して、**初妊牛の確保や災害時の互助等に取り組む経営を優先的に支援。**

事業内容

省力化に資する機械装置の導入

国庫補助上限：
1戸当たり3千万円

○搾乳機械装置



- 【搾乳ロボット】
- ・ 乳用牛が自発的に搾乳室に出入りし、搾乳作業を自動化



- 【ミルクングバーラー】
- ・ 乳用牛を搾乳室に移動させ、搾乳作業を集中化



- 【搾乳ユニット搬送レール】
- ・ つなぎ飼い経営で利用する搾乳器(約9kg)をレールで搬送

○飼料給与装置



- 【自動給餌機・餌寄せ装置】
- ・ 餌槽に飼料を散布し、飼料給与作業を自動化
 - ・ 口元に餌を戻し、食残しを低減



- 【ほ乳ロボット】
- ・ ぼ育牛が自発的に飲乳し、ほ乳作業を自動化

○発情発見装置



- 【発情発見装置・分娩監視装置】
- ・ 発情した牛は歩数が増えることから、活動量を用いて発情を発見

集合搾乳施設の設定

酪農家の搾乳作業の省力化を図るため、各酪農家が飼養する搾乳牛を集め、共同して搾乳作業を行う施設の整備を支援。

地域の酪農家

個別に管理



搾乳牛の
共同管理

搾乳ロボット等を利用した省力的な搾乳牛の管理



地域の酪農家

輪番で搾乳牛を管理し、毎日の搾乳作業から解放。



農林水産省では、アニマルウェルフェアの考え方を踏まえた乳用牛の飼養管理の普及に努めています。
(http://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal_welfare.html)